討議資料

神奈川県議会議員

永田まりな

MARINA NAGATA

鎌倉人 VOL.59

6月25日 一般質問を行いました！

県議会議員になって3回目の一般質問に立ちました。今回はコロナ禍において新たに顕在化した課題、またコロナ禍においても継続的に対応しなくてはいけない課題を意識し、以下の8項目にわたり、知事を始めとする担当局と議論をしました。

1. 市町村における専門人材の確保に対する県の支援
2. 相模湾沿岸の海岸侵食対策
3. 県職員の不妊治療と仕事の両立支援
4. コロナ禍における業務改善に向けた職員の意識醸成
5. 河川から海に流出するプラごみの削減対策
6. コロナ禍を踏まえた在宅での看取り
7. 急傾斜地崩壊対策
8. 持続可能な部活動運営への取組み

ライブ中継だけでなく、過去の議会の様子も動画でご覧になれます　神奈川　インターネット会議中継

今号ではその中からまず、コロナ禍で新たに顕在化した課題として **6. コロナ禍を踏まえた在宅での看取り** について報告します。

Q 永田

コロナ禍においては、感染を恐れて必要な受診を控えたり、入院中の病院で家族の付き添いや面会が制限され、心細い思いをしている方も多いと聞きます。そのような中、在宅での看取りを希望する方も倍になったともいわれています。

県では、誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、在宅医療の体制整備や医療と介護の連携を進め、地域包括ケアシステムを推進してきましたが、このコロナ禍にあって、自宅で最期を迎えたいと希望した患者や家族が、在宅での看取りがかなわないことがないよう取組みを進める必要があります。

コロナ禍でその重要性が明らかになった「在宅での看取り」ができる体制の充実に向け、どのように取り組んでいくのか？
見解を伺いました。

A 健康医療局長

これまでも県では在宅での看取りを支える体制を整える為、在宅医療トレーニングセンターを設置し、医療介護従事者のスキルを向上させる研修などを実施してきており、この10年間で自宅や地域でなくなる方の数は約2倍になっている。
それに併せ、このコロナ禍を契機にご家族やかかりつけ医とどのような最期を迎えたいか、あらかじめ話し合っていただくことの普及啓発、そのための講演会などに努めていく。

✓ 永田のポイント

希望する最期を迎えられること、それは人の尊厳に関わる重要な権利であると考えます。コロナ禍を理由に、その権利が行使できないということがあってはいけません。今、私達を取り巻く環境には様々な課題があることが明らかになっています。
特に、在宅での看取りについてはコロナ以前からあった障壁が今回のコロナにより顕在化したと言って良いでしょう。
地域格差・家族の負担・後方支援の充実など、考えていかなくてはいけない課題はひとつふたつではありません。
是非とも県には、まず環境を整えること、医療・介護などの皆様との情報共有を引続き行いながら「誰もが希望する最期を迎えられる神奈川」を目指し、進んで頂きたいと思います。

次に、コロナ禍においても継続的に対応が必要な課題として **2. 相模湾沿岸の海岸侵食対策** についてご報告します。

（裏面へ）

Q 永田

砂浜の侵食は鎌倉市においても大変大きな課題の一つとして捉えられています。

私が幼少の頃、稲村ガ崎海岸は海水浴場を開設していましたが砂浜の減少により2003年からは開設されていません。地元から愛されてきた海岸が今、消えようとしているのです。また、2019年に起きた134号稲村ガ崎の道路の陥没は、これまで擁壁に届かなかった波が砂浜の侵食により届くようになり、その影響を受けたものと考えられることからも、砂浜の侵食は情緒的な話ではなく私たちの安心安全な生活にも影響を及ぼしかねない重要課題であります。

そのような現象に対応するため、県は平成23年に相模湾沿岸海岸侵食対策計画を策定し、令和2年度末に改定しました。今回の相模湾沿岸海岸侵食対策計画の改定にあたり、県ではどのように見直しに取り組んできたのか、また今後、海岸の侵食対策にどのように取り組んでいくのか、見解を伺います。

A 黒岩知事

計画に基づき、浸食対策を進めてきたが、鎌倉市七里ケ浜海岸などでは浸食が進んでおり、より効果的な対策の実施に向けて計画を見直した。改定にあたり蓄積してきた砂浜の測量データや航空写真を活用し、浸食の堆積の傾向を詳細に分析することで、これまでの投入した砂の量や質が適切であったかの検証を行った。

その結果を踏まえ、有識者の技術的助言を得て、今後の変化をシミュレーションし、各海岸に最適な養浜量等を検討。浸食が進んだ七里ケ浜地区などでは、養浜量を増やすなど新たな対策を取りまとめた。今後は定期的なモニタリングを行いながら、適宜見直しを行い、漁業関係者や砂浜の利用者など、地元の方々と丁寧に調整を行っていく。

永田のポイント

地域ごとの砂浜には、おそらくそれぞれの特徴があります。 例えば、七里ガ浜から稲村ガ崎の間の砂浜は、以前は砂利砂であったと聞いています。これはその地形や自然構成として意味のある特徴と考えます。つまり、地域特性にあった対策をしないと、結果的にいたちごっこになってしまうのではないかと危惧するものです。
侵食対策を行う際は、地域ごとの特徴・特性をしっかりと捉え進めて頂くことを求めました。

公式LINEを開設しました

県政情報などを随時発信中。 生活の話題も交えつつ、もっと政治や県政に関することを身近に感じて頂ければと思っています。お気軽にお友だち登録をお願い致します！

永田まりなプロフィール

1983年2月19日生まれ38歳　七里ガ浜在住
聖路加幼稚園 ～ 鎌倉市立七里ガ浜小学校 ～ 私立北鎌倉女学園中学校 ～
神奈川県立鎌倉高校 ～ フェリス女学院大学卒業

2013年 鎌倉市議選初当選
2017年 鎌倉市議選２期目当選
2019年 神奈川県議会銀初当選
厚生常任委員会、予算委員会、議会運営委員会所属

「永田まりな」公式LINE
友だち登録はこちら

永田まりな事務所
〒247-0046 鎌倉市大船2-20-31 IWOビル3-A TEL：0467-84-9713 jimukyoku@nagata-marina.com nagatamarina.kamakura